

## 第7回NPO/GCM交流フォーラム

NPO法人広域連携医療福祉システム支援機構

周藤安造

1

## 25年問題貢献に向けたNPOの挑戦

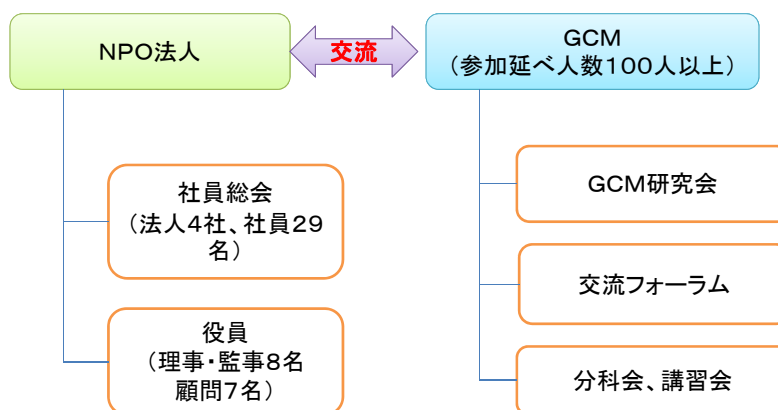
今後の主な目標

- 医工連携の推進  
これまで以上に交流フォーラムなどを介して  
推進
- 物づくりへの挑戦  
試作から実証実験へ  
同時に科研申請も

2

## 交流フォーラムの目的・体制

NPOは任意団体GCMと交流を深め、活動



3

## 産学交流と医工連携を 推進した主な活動

1. NPO／GCM交流フォーラム  
これまで6回
2. GCM研究集会  
これまで16回開催
3. 分科会活動  
脳機能解析応用分科会、遠隔医療システム  
分科会など
4. 講習会開催  
三島市医師会向けICT講習以来昨年  
東海大学湘南校舎でブロックチェーン講習

4

## 物づくり支援

各種研究推進事業を通して物づくり支援が推進された。以下、主な事業

1. 消臭寝具の開発とPOC  
東海大学医学部(田中彰先生)とIMT社との共同開発、臭気計実証実験済み
2. 問診票システム一体調管理モニタリングシステム  
田中彰先生のもと来年度科研申請済み
3. 可搬型多機能リハビリ機器開発と臨床応用  
たくみケアなどで実証実験中
4. 在宅ケアシステム  
東京都品川区介護施設「福栄会」と連携

5

## 消臭寝具の開発とPOC

東海大学医学部(田中彰先生)とIMT社(富板社長)との共同開発、  
シーツ、枕カバー40セットは完成  
サンプルによる消臭実証実験は  
11月9日に湘南校舎で実証済み

(交流フォーラムで実現したテーマ)

6

## 問診票システム 一体調管理モニタリングシステム

患者情報アウトカム(PRO)としての体調や抗がん剤の副作用の情報を患者自身の治療やQOLに生かす。

当初は問診票システムの開発に着手したが、よりニーズの明確な抗がん剤による体調管理モニタリングシステムを先行し、田中彰先生のもと来年度科研申請を行った。

(脳機能解析応用分科会活動の議論の中で実現)

7

## 可搬型多機能リハビリ機器開発 と臨床応用

在宅での四肢リハビリをサポートする可搬型機器で病院・施設とのネットワーク連携リハビリも視野に入れている。

現在、東海大学健康学部柴田健雄先生などの支援により、(株)たくみケア(神奈川県秦野市)、任和会総合病院(八王子市)などで実証事件中  
(主にロボット分科会で議論されたテーマ)

8

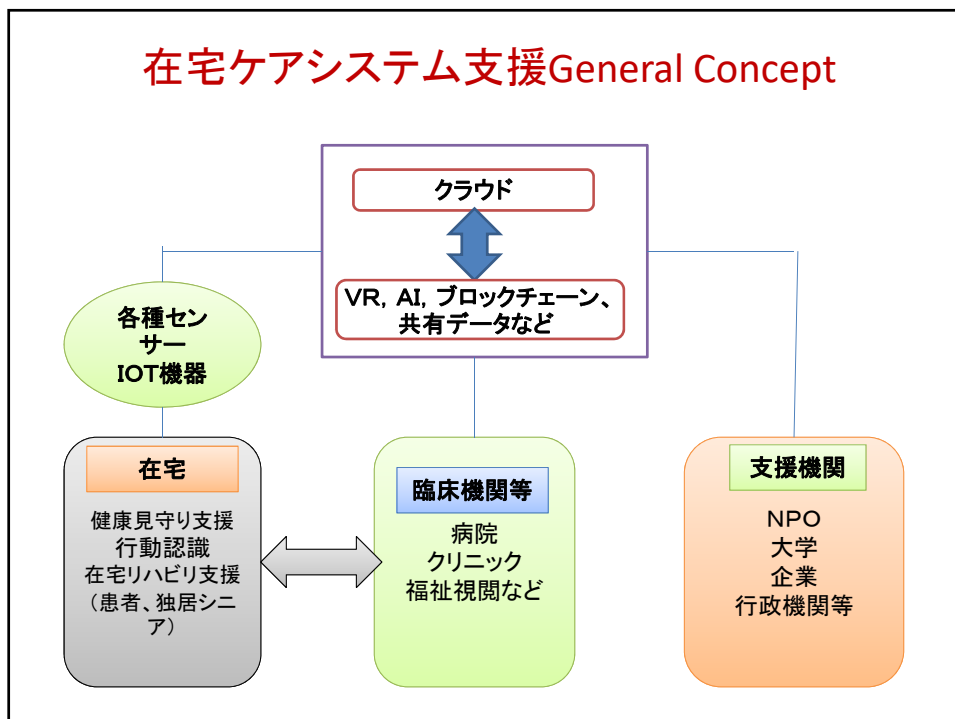
## 在宅ケアシステム

患者居宅と施設・クリニックなどで連携してIoT端末などにより生体情報を収集・共有し、在宅での熱中症や浴室でのヒートショックをケアするシステムで。在宅でスマホにより画像撮影し、クラウド上でのAI画像診断も可能。

(遠隔医療システム分科会で議論したテーマ)

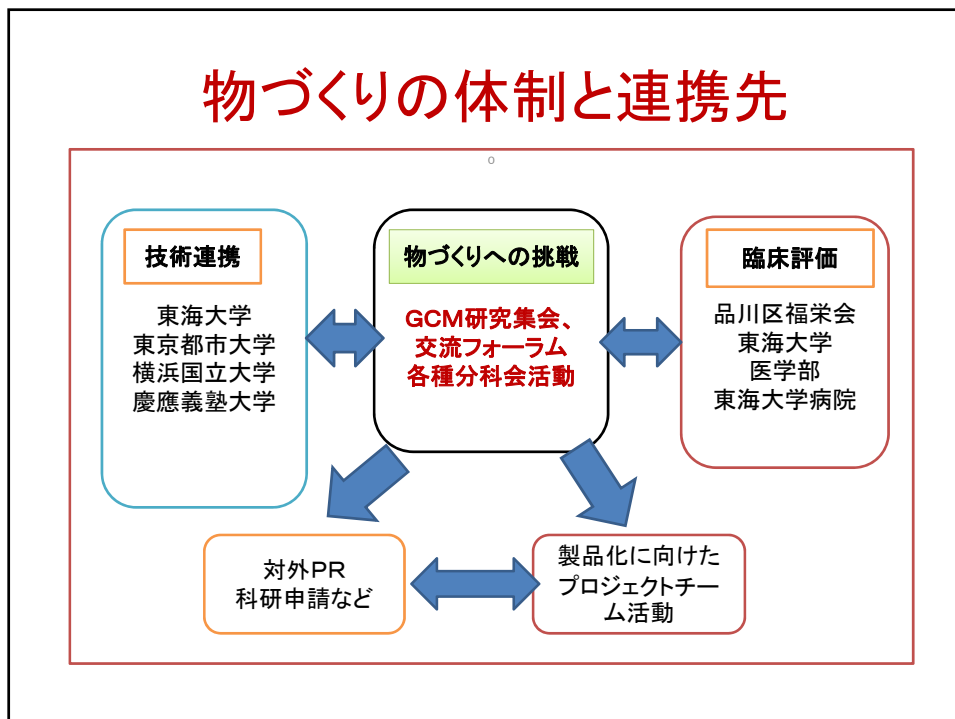
9

## 在宅ケアシステム支援General Concept



10

## 物づくりの体制と連携先



11

## 今後の展開と課題

1. 試作・実装  
NPOとNPO会員法人企業で連携して進める。
2. 実証実験  
東海大学病院や介護施設などの協力をお願いする。
3. 対外PRと科研申請

12